

1 光市の概況

(1) 人口等の状況

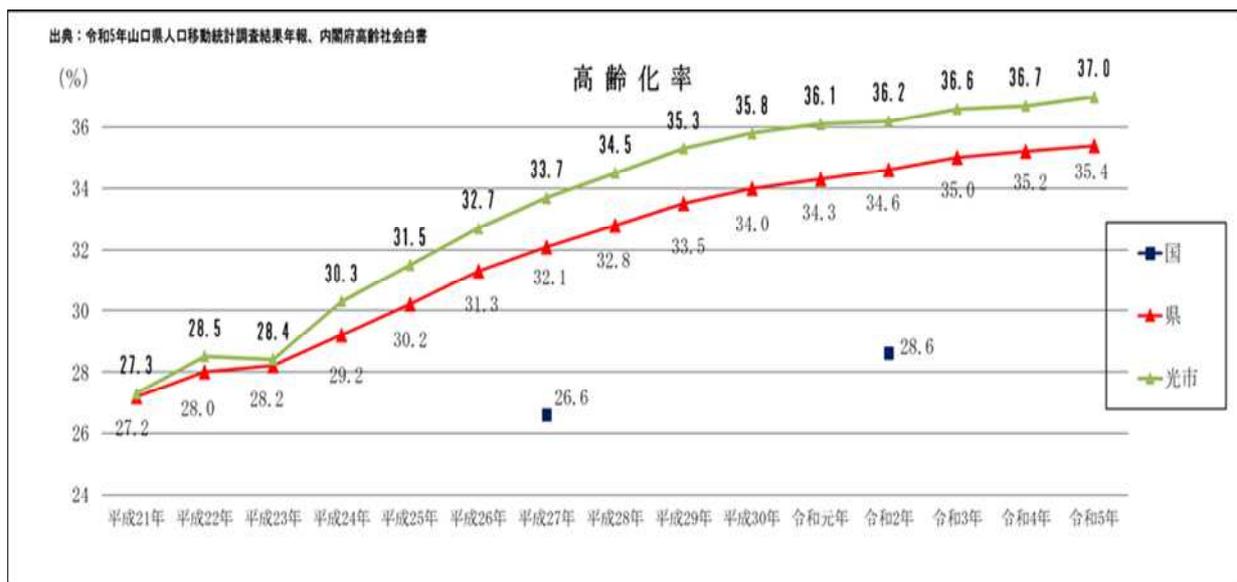
ア 人口・世帯の推移

人口は減少傾向にあり、令和5年には49,233人（令和元年51,081人）となっています。世帯数は令和元年に比べ若干増加傾向ですが、1世帯あたりの人員は減少傾向が続いています。



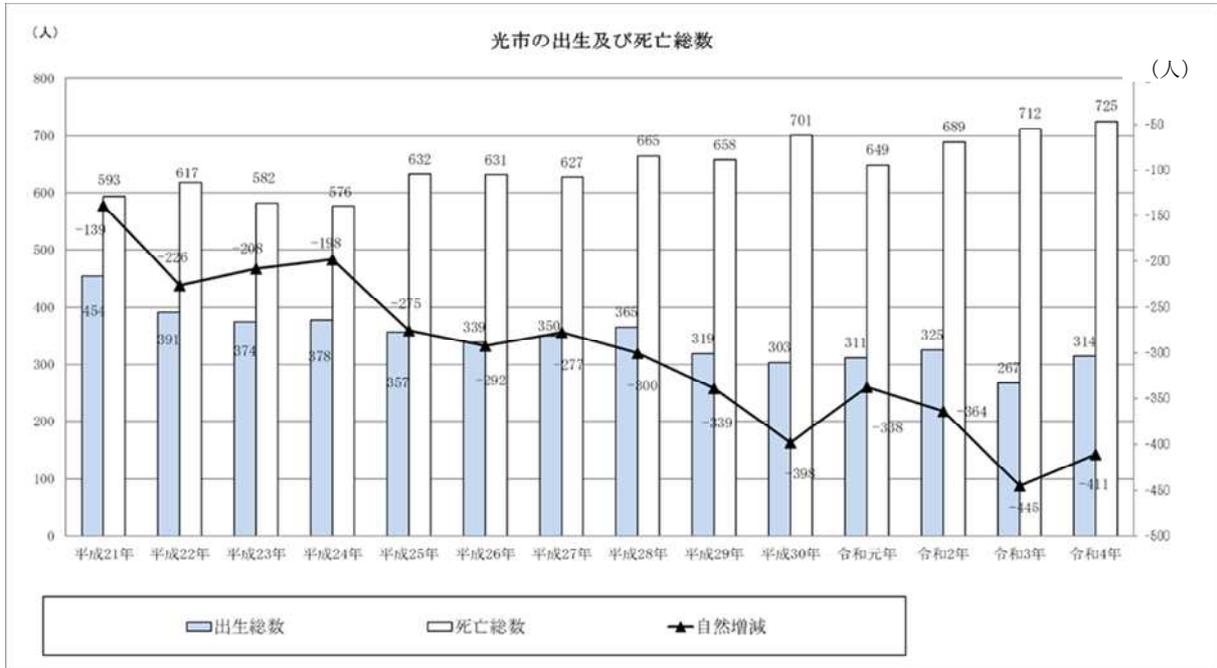
イ 高齢化率

高齢化率は、平成24年に30%を突破し、令和5年に37%と高齢化が進んでいます。



ウ 出生・死亡の推移

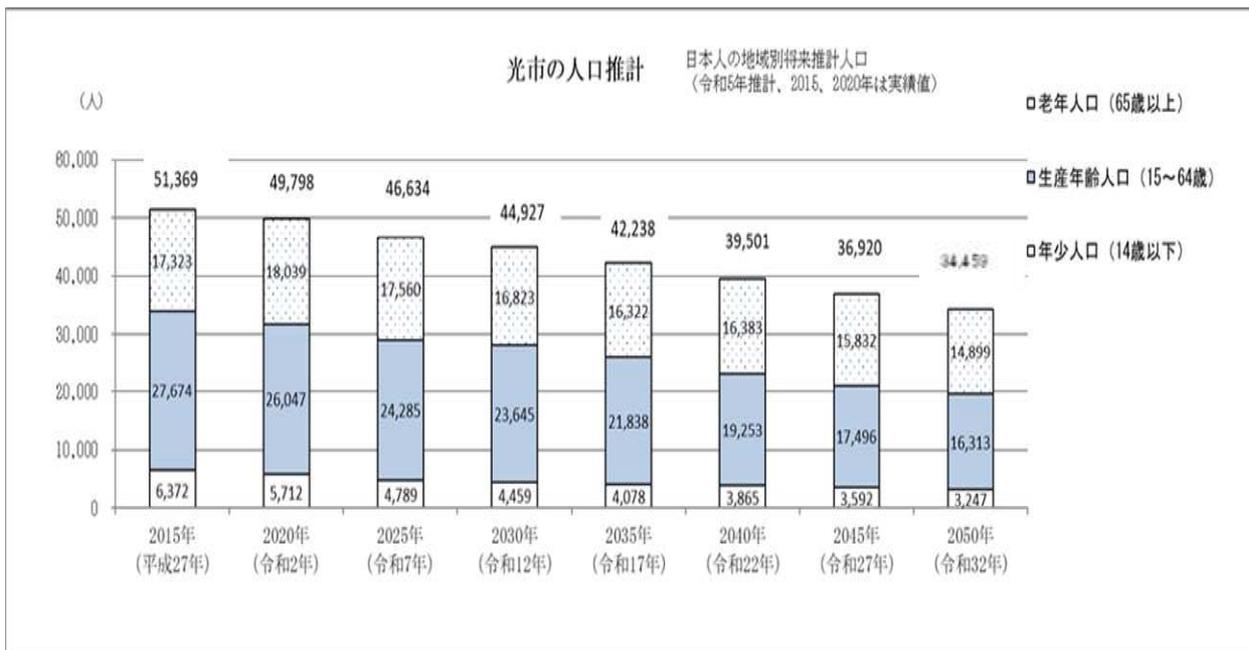
出生は平成22年に400人を下回り、令和3年には300人を下回りましたが、令和4年の出生数は314人と微増の状況です。依然として、死亡数が出生数を大幅に上回り、自然減となっています。



出典：山口県人口移動統計調査

エ 推計人口

人口は年々減少し、2030年（令和12年）には44,927人、2040年（令和27年）には40,000人を下回り、少子高齢化が進んでいく予測がされています。



出典：国立社会保障・人口問題研究所

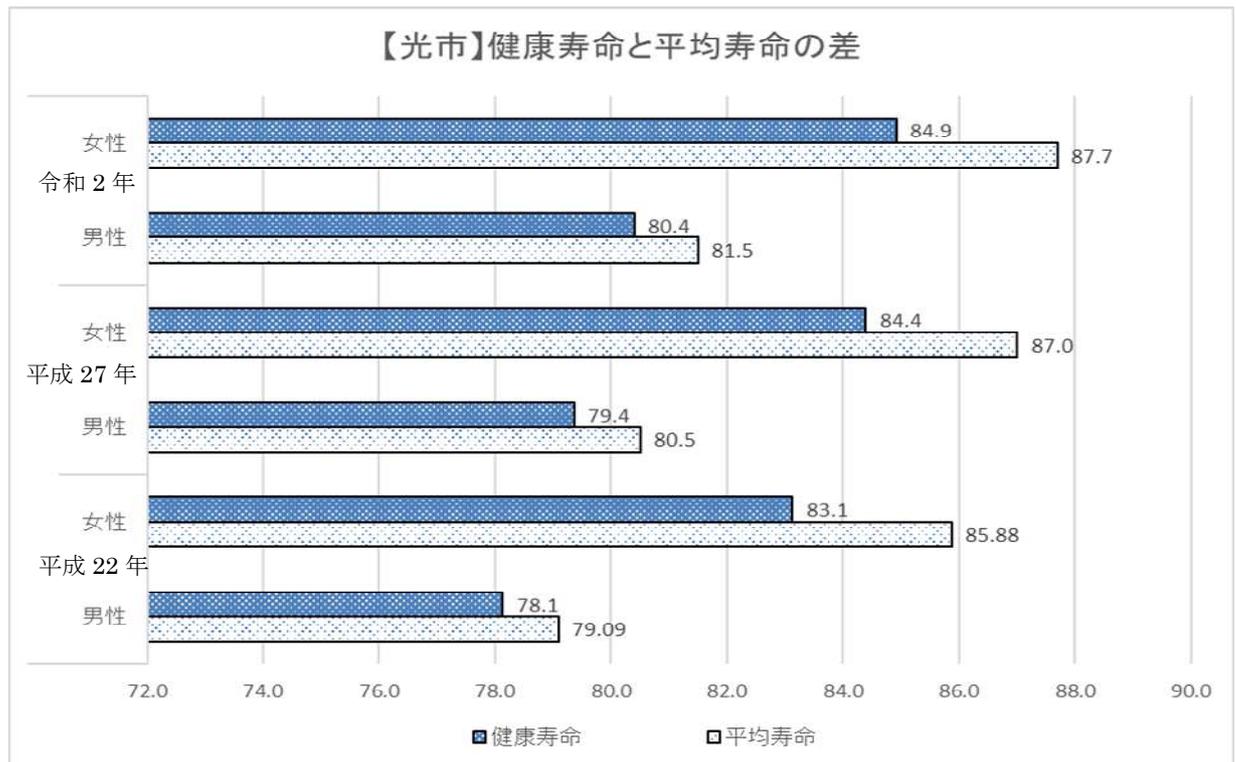
2 健康を取り巻く状況

(1) 平均寿命と健康寿命

本市の平均寿命と健康寿命（健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間）の差は、令和2年度では男性は1.1歳、女性は2.8歳と女性の方が差が大きい状況です。

これは計画を策定した際に使用した、平成22年のデータと変化ありません。

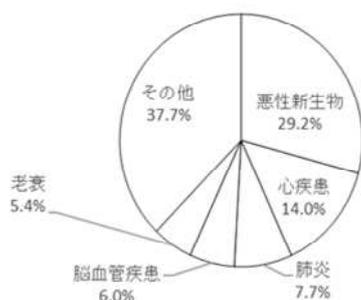
※健康寿命は、国が実施する「国民生活基礎調査」に準じた算出方法で県が算出しているデータを使用。



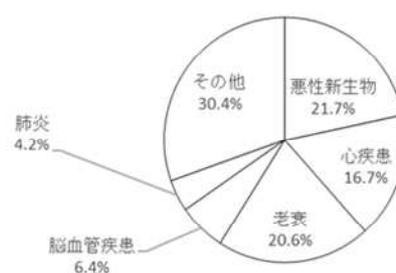
出典：山口県健康福祉部健康増進課

(2) 死亡原因

5大死因が占める性別死亡割合:男
(令和4年度)



5大死因が占める性別死亡割合:女
(令和4年度)



出典：山口県保健統計年報

本市の悪性新生物（がん）、心疾患、脳血管疾患、老衰、肺炎の五大死因による死亡は、全国・山口県と同様に死亡全体の約7割を占めています。

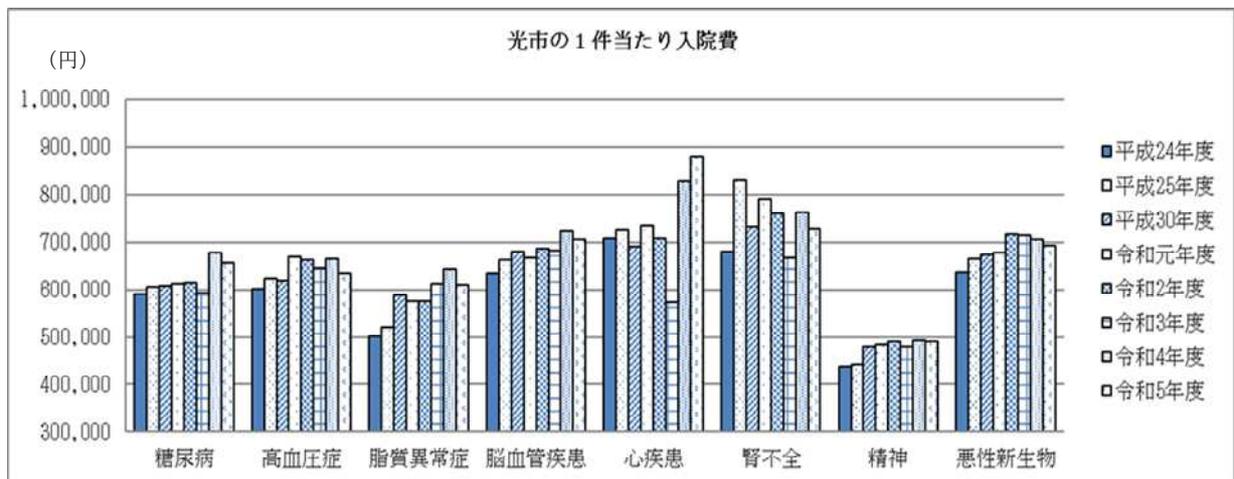
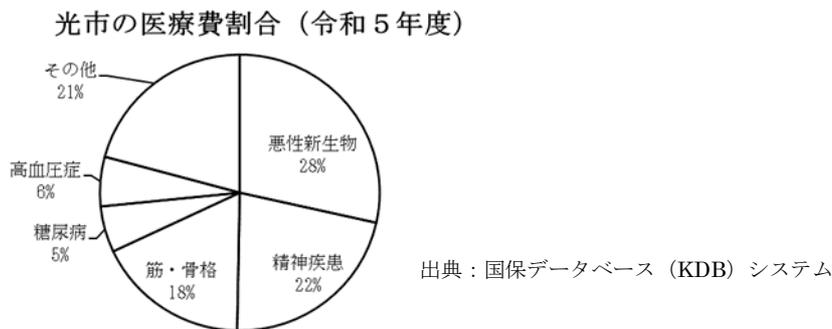
死亡原因については老衰が数を伸ばしている状況です。

(3) 診療状況（光市国民健康保険）

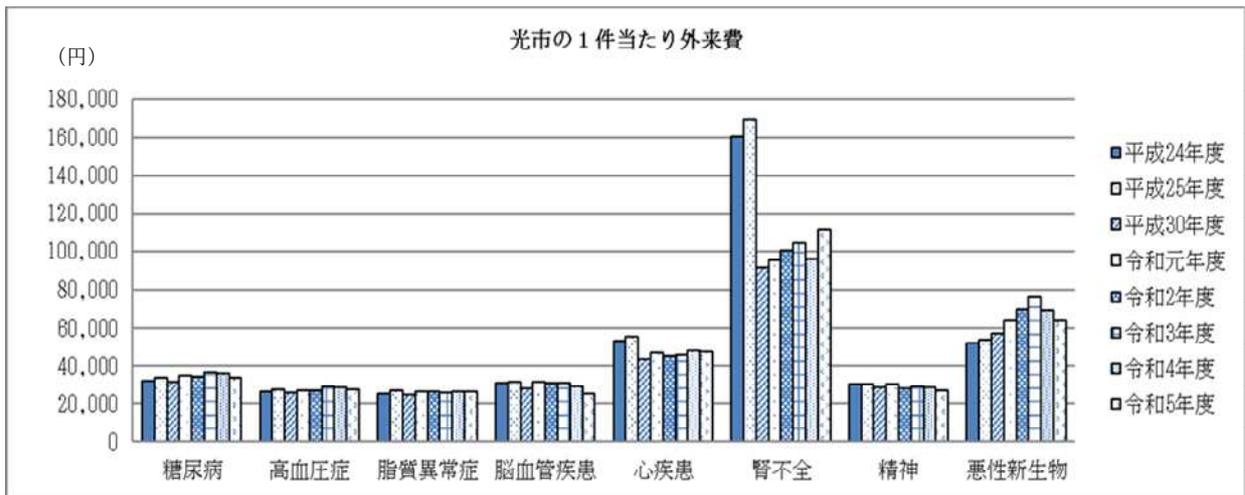
令和5年度の最大医療資源傷病名による医療費割合では、悪性新生物28%（令和元年度31%）、精神疾患22%（令和元年度18%）、筋・骨格18%（令和元年度16%）となっており、精神疾患、筋・骨格の割合がやや増加しているものの、その他疾患の割合が減少しています。

近年の光市の状況は、山口県や同規模保険者、全国と同様の傾向となっています。

※最大医療資源傷病名とは、医療資源をもっとも投入した傷病名のこと



光市国民健康保険での1件当たりの入院費をみると、5年前に比べると腎不全による医療費は減額しており、心疾患の医療費が増額しています。



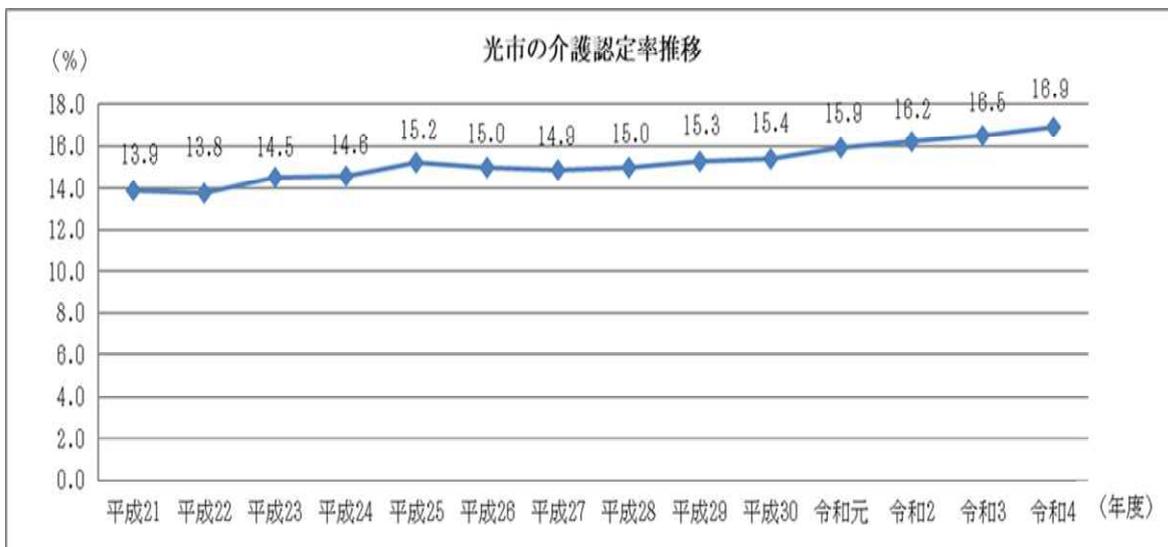
出典：国保データベース（KDB）システム

光市国民健康保険での1件当たりの外来費をみると、5年前に比べると腎不全による医療費は増額しています。

(4) 介護保険認定状況

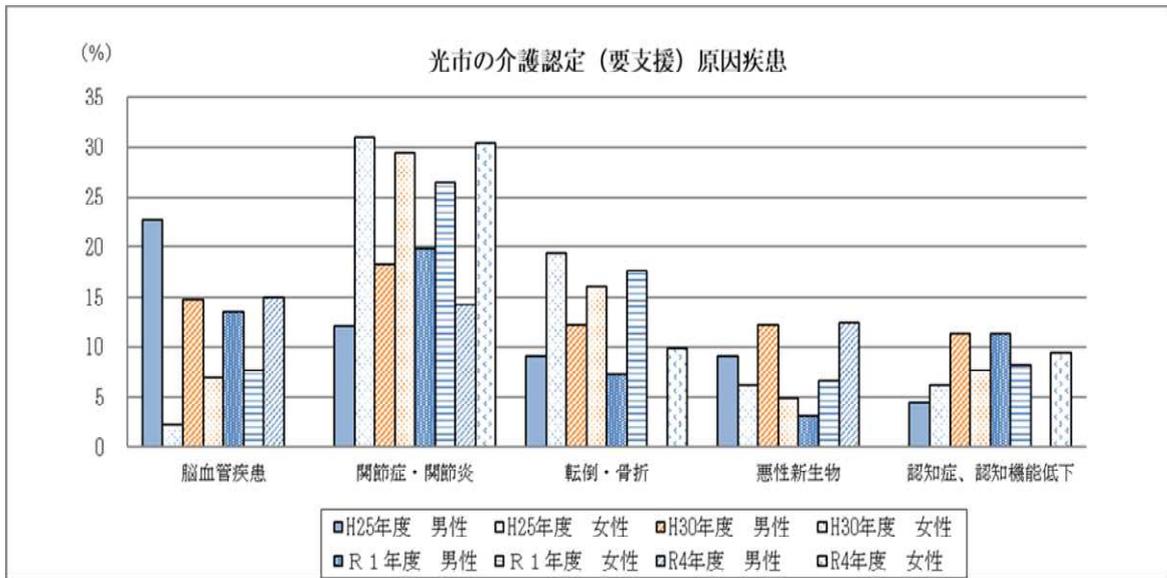
ア 介護保険、要介護（要支援）認定者の状況

介護認定率は年々増加傾向です。

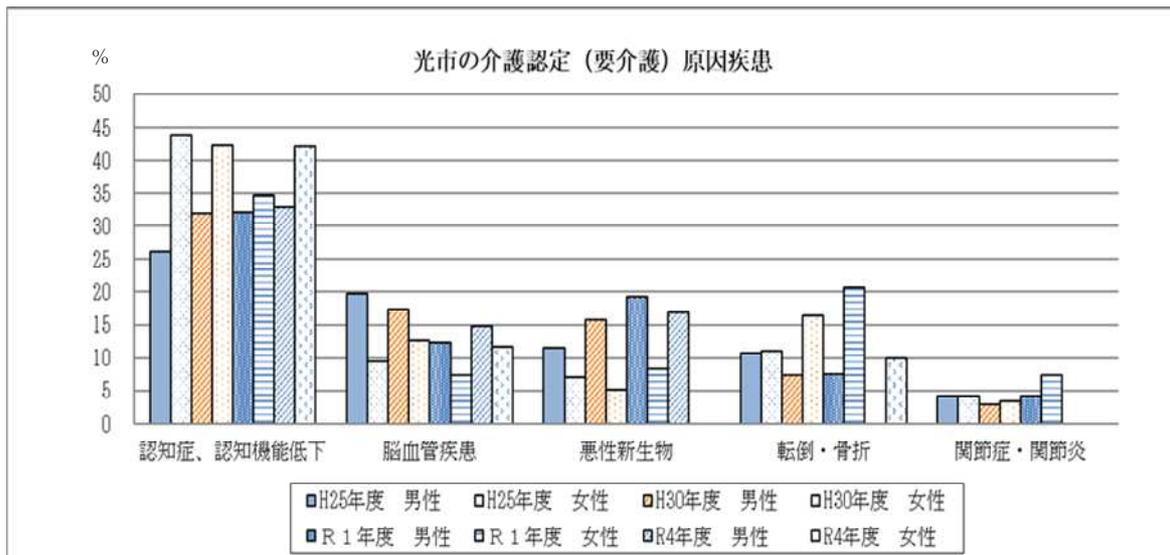


出典：光市介護保険審査会

イ 原因疾患



出典：光市介護保険審査会



出典：光市介護保険審査会

女性では要支援になる原因疾患が関節炎・関節症が最も多くなっています。
 要介護になる原因疾患の1位が男女とも認知症・認知機能の低下となっています。
 女性では、男性に比べ要支援、要介護とも転倒・骨折によるものが多いことが特徴です。

4 運動について

(1) 子どもの体力状況

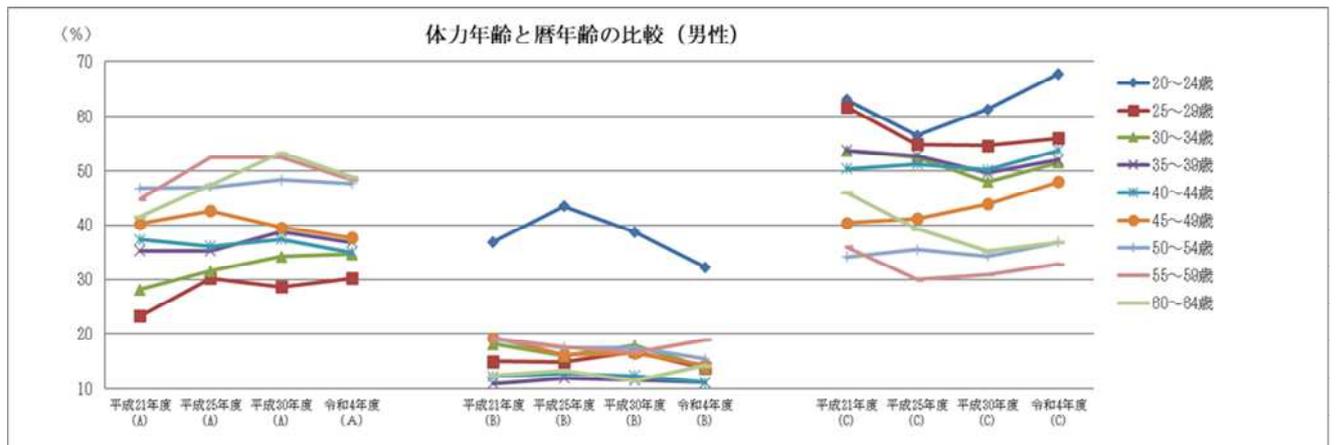
	男子					女子				
	小5	小6	中1	中2	中3	小5	小6	中1	中2	中3
握力	◎	×	◎	○	◎	○	○	○	○	○
上体起こし	○	○	×	×	○	○	×	○	×	○
長座体前屈	○	○	×	○	◎	○	○	○	○	×
反復横とび	×	×	○	○	◎	◎	×	◎	○	○
持久走	/	/	×	×	○	/	/	×	○	○
20mシャトルラン	◎	○	○	○	◎	◎	○	○	○	○
50m走	◎	◎	○	○	◎	◎	◎	×	×	○
立ち幅跳び	×	○	○	○	◎	◎	○	×	○	○
ハンドボール投げ	◎	×	○	×	○	◎	○	○	○	○

◎全国、県平均より上回る ○どちらか一方で上回るまたは同じ ×すべて下回る

出典: 令和4年度 光市新体カテスト統計資料

小学生は全体的に全国平均に比べ記録が下回っている傾向にあります。柔軟性や反復横跳び運動の向上を目指した運動を計画的に取り組む必要があります。中学生は、学年があがるとともにほとんどの種目で記録が向上しているものの、全国平均に比べるとほぼすべての記録が下回っていることから、バランスのとれた体力向上に取り組む必要があります。

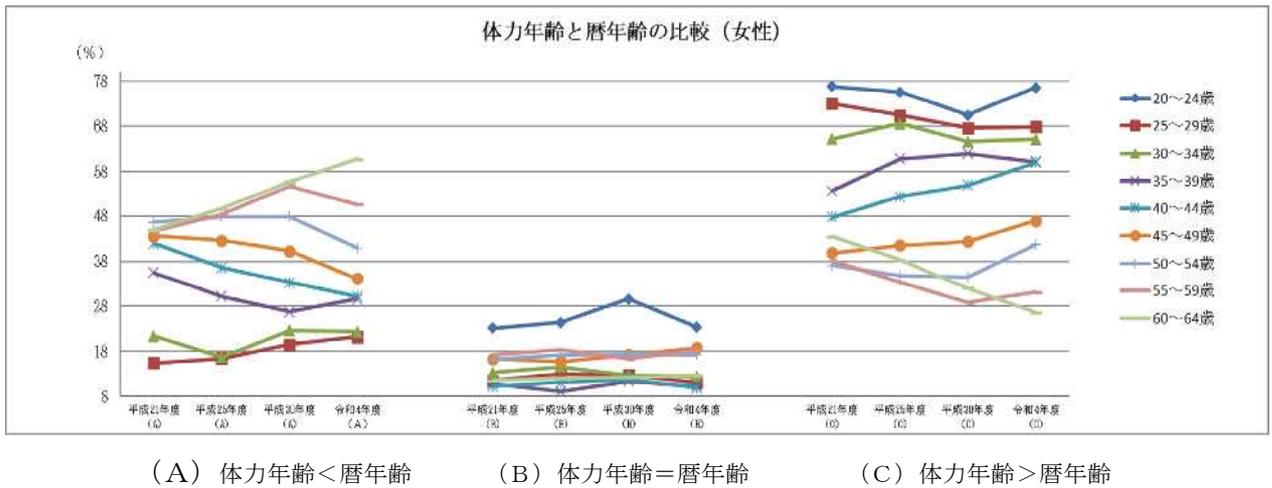
(2) 成人の体力状況 (参考: 令和4年度体力・運動調査結果/スポーツ庁 全国の状況より)



(A) 体力年齢<暦年齢

(B) 体力年齢=暦年齢

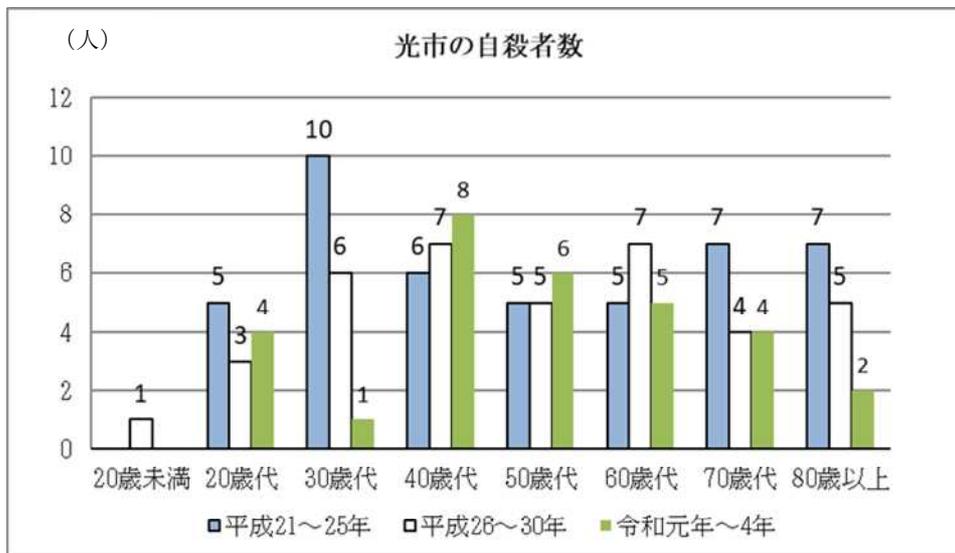
(C) 体力年齢>暦年齢



全国的に、男性は暦年齢より体力年齢が低下（A）している者が50歳以上からとなっており、女性は55歳以上からとなっています。

5 こころの健康について

(1) 自殺者の状況（数及び年齢別）



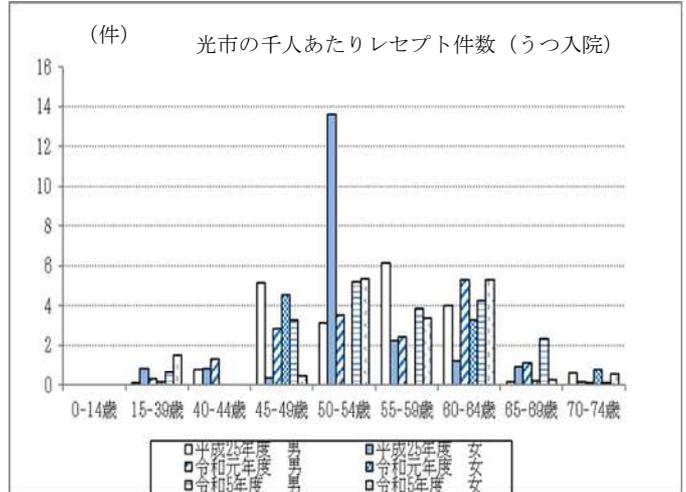
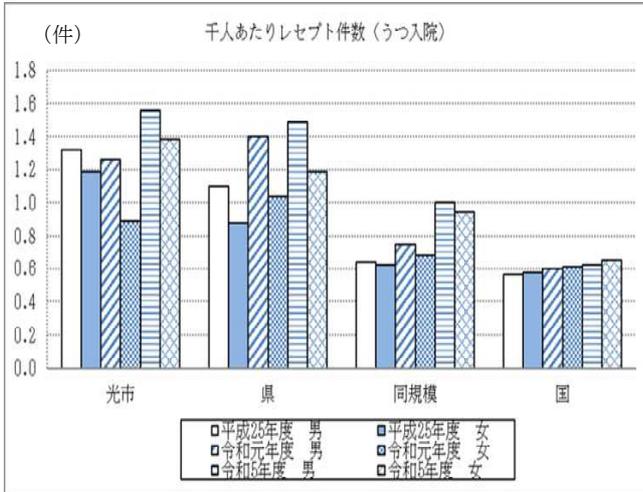
出典：地域における自殺の基礎資料（厚生労働省）

自殺者数は平成24年をピークに減少傾向で、令和4年はこの10年間で最も自殺者数が少なくなっています。

令和元年から令和4年の4年間の自殺者数を年代別で表すと40歳代に多い状況です。

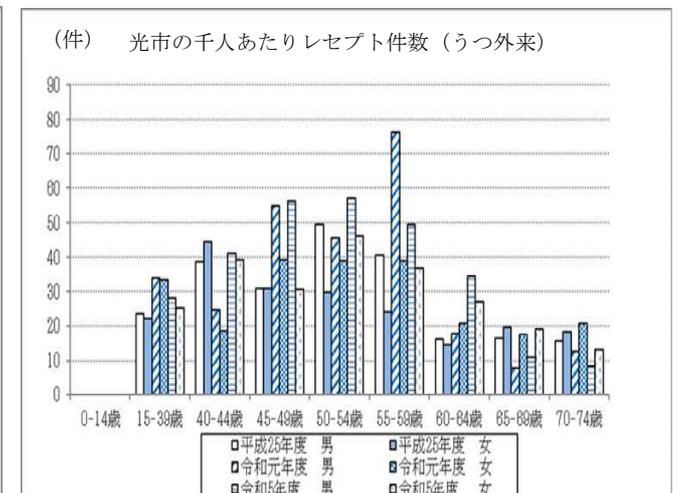
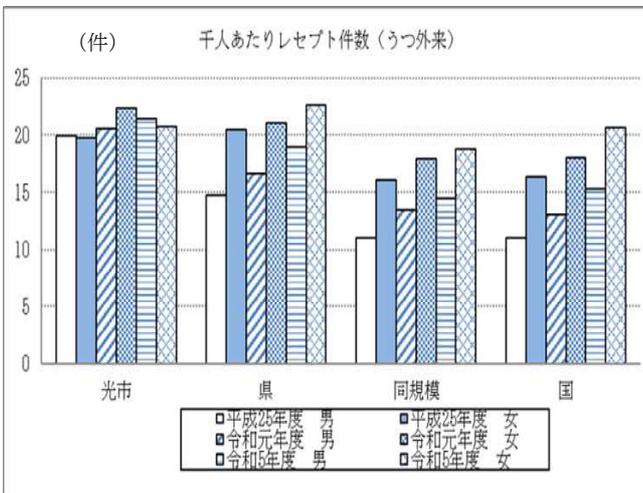
(2) うつ病の診療状況 (出典：国保データベースシステム (KDB))

ア 入院



入院においては、診療件数が県、同規模の市町、全国に比べ多い状況です。
令和5年度においては、50-54歳の男女及び60-64歳の女性が多い状況です。

イ 外来



外来においては、男性の診療件数が県、同規模の市町、全国に比べ多い状況です。
令和5年度においては、45-49, 50-54歳の男性が多い状況です。